

http://scn-net.easymyweb.jp/member/takako_3/



所属会派：清風クラブ・団長
議会運営委員会委員長
都市建設常任委員会委員（2020年度）
平塚市病院運営審議会委員
（2020～2021年度）

いつも笑顔で やる気、根気、元気!

会派代表者として、初めて代表質問を行いました。これまでの代表質問では総合計画や予算について集中して質問することが平塚市議会の例でしたが、今回は冒頭に議案に触れたり、新型コロナウイルス感染拡大により、急遽、議会日程がずれたり、今までに経験のない対応が重なりました。

令和2年2月17日から3月17日まで、令和2年3月市議会定例会が開催されました。代表質問（質問時間40分）の質疑応答の一部を抜粋してご報告します。ひらつか議会だより第214号（R2.4.30発行）と併せてご一読ください。

活動報告会 について

新型コロナウイルスへの対応も含め、今後の報告会のあり方を考え直しています。活動全般についてのご意見・ご質問についてはfax：0463-21-7600、E-mail：takatan.kike@md.scn-net.ne.jpへお願いします。

市長に問う、施政方針から、平塚市総合計画～ひらつかNEXT～改訂基本計画

市政運営の総合的指針として、2016年度から2023年度を計画期間とする平塚市総合計画～ひらつかNEXT～が中間年を迎えたことにより、2020年度から2023年度を計画期間とした平塚市総合計画～ひらつかNEXT～改訂基本計画2020-2023（以下、改訂基本計画）が策定された。

問 改訂基本計画の四つの重点施策、Ⅰ強みを活かしたしごとづくり、Ⅱ子どもを産み育てやすい環境づくり、Ⅲいくつになってもいきいきと暮らすまちづくり、Ⅳ安心・安全に暮らせるまちづくりについて、それぞれの主な改訂内容を伺う。

市長 重点施策Ⅰ「強みを活かしたしごとづくり」では、先端技術の導入や生産性向上に向けた取り組みの支援、ソサエティー5.0の動向に応じたイノベーションの創出、中小企業の事業承継、地域資源を活用した着地型観光の推進に取り組むことで、

人口減少社会がもたらす地域経済の縮小化の中にあっても、持続的な経済成長の実現を目指す。

重点施策Ⅱ「子どもを産み育てやすい環境づくり」では、結婚・妊娠・出産を希望する人への支援、中学校完全給食の早期実現に向けた取り組みの推進、特別保育の拡充に取り組むことで、誰もが安心して出産・子育てできるよう社会全体で応援する社会環境の実現を目指す。

重点施策Ⅲ「いくつになってもいきいきと暮らすまちづくり」では、就労を希望する高齢者がそれぞれにあった働き方で活躍できる環境整備、健診結果を踏まえた生活習慣病の早期対応、地域包括ケアシステムの深化・推進に取り組むことで、地域住民が世代や立場を越えてつながりを持ち、高齢になっても安心して元気でいきがいを持って暮らし続けられるまちを目指す。 次ページに続く→

市長 重点施策Ⅳ「安心・安全に暮らせるまちづくり」では、被災後の避難生活の支援や円滑に生活再建を進められる体制づくりの推進、体感治安や安心・安全に対するイメージの向上、バリアフリーの推進に取り組むことで、自然災害、犯罪・事故などから市民の生命・財産を守る安心・安全なまちの実現を目指す。

問 2018年度に実施した平塚市市民意識調査や転入出者アンケートの調査の結果は改訂基本計画にどのように反映されたのか。

市長 平塚市市民意識調査や平塚市転入出者アンケート調査の結果、8割以上の市民が定住意向を示しており、施策や暮らしやすさの満足度が向上していた。これまでに取り組んできた成果の表れであり、施策の継続性を確保したことが、最も大きな反映内容だと捉えている。

一問一答による再質問

問 人口減少社会については社会全体がこの事実を受け止めて、今後どうしていくかということを考えていかなければならない。4つの重点施策、それぞれの事業がバランスよく進んでいき、本市を選んでもらうことが大切である。子育て世代であればより子育て施策を強くしてほしい、高齢者であれば高齢者が外にでる手法などさまざまな世代の声がある。

市民意識調査や転入出者アンケートの中で8割程度の人が定住意向の中で満足という意見もあり、前例踏襲的な施策を重視している印象がある。市長の3期目の約束でもホットミーティングの手法を変えていくと述べているので、この8割の満足されている意見とは違った面にどうやって向き合っているのか、どのように吸い上げていくのか。

市長 人口減少社会を見据えて、この総合計画を策定し、総合戦略を前回に引き続き4点にしばった。いろいろなアンケートなどで今後の移住意向もある8割は満足しているが、あとの2割に対してもしっかりと目を向けなければならない。

そのためにはこの4点をバランスよく進めなければならない。この8年間の中でも中間見直しはしたが、この4点は平塚がこれから将来にわたり、持続可能な選ばれるまち、住み続けるまちになるためには大変必要なものである。引き続き、尚且つ、進化させて、より魅力あるまちづくりの施策として、これを基本としてまちづくりを進めていこうと、正に戦略の大きな4つの柱である。

財政的なことも含めて集中と選択、それから全体最適、いろいろな面からもこの4点を中心とした考え方をもってまちづくりを進めていきたい、その基本となるものであると理解してもらいたい。

こんなときだからこそ、平塚の魅力に改めて気づくこともあります。



【湘南平】



【いちご狩り】3月15日(日)、平塚市内のいちご園。アルコール消毒も用意され、楽しめました！緊急事態宣言以降はいちご園での直売やあさつゆ広場で販売されています。



【増設】総合公園・ふれあい動物園近くの親子トイレ



【改装】総合公園・平塚のはらっぱ南側のトイレ



【新設】ひらつかタマ三郎漁港・しおかぜ広場のトイレ

魅力あるまちづくりに向けて 湘南海岸公園龍城ヶ丘ゾーン整備・管理運営事業

1月末に建物面積990平方メートルを含む施設概要がイメージ図と共に公表され、市民から一定の理解も得られたのではないかと感じる一方、継続して不安視されている市民の声も耳に届く。

問 学識経験者等によって構成する平塚市公募対象公園施設設置選定委員会において、そのうちの積水ハウス株式会社を代表企業とする、平塚 Seaside Park 共同事業体が選定された。選定されたグループとその他のグループとの違いについて伺う。

市長 選定された積水ハウスを代表企業とするグループの提案は、市民の意見を反映して作り上げた要求水準書の基本コンセプトに一番近い計画となっており、緑豊かであることや一定のにぎわいがあることなどについてバランスが良い提案と捉えている。

例えば、植栽計画では、道路側だけでなく海側にも樹木を配置し、白砂青松の連続性に配慮したことが優れていた。また、上限を2500平方メートルとしていた建築物について、3棟に分けて小規模

な建物に抑え、3棟の合計でも約990平方メートルと圧迫感を軽減した計画となっている。

さらに、飛砂防備においては、シミュレーションを実施した上で防砂機能を意識した植栽や段差を提案するだけでなく、今後も大学や研究機関と協力して実地測定などを行い、更なる飛砂対策を講じるとしている。

その他、津波避難施設の展望機能などを工夫していることが他のグループより優れていた点である。

一問一答による再質問

問 この事業は新港から西の龍城ヶ丘まで海一体に影響する。今後、Cゾーンのスケジュールを前倒しする必要もあるかと思うが、見解を伺う。

都市整備部長 CゾーンのスケジュールについてはAゾーン、Bゾーンとの繋がりつながりが大切である。整備に向けて、専門家などを含め、市民との意見交換を行って決めていきたい。また、スケジュールなどの詳細についてはこれから決めていく。



旧龍城ヶ丘プールの東西の樹林帯は飛砂防備保安林に指定されていませんが、134号線の北側の飛砂防備保安林はよく整備されている様子が分かります。

平塚市では市民意見を募集しています！

募集期間 2020年3月31日(火)～5月31日(日)

平塚市役所HPから → 『【募集中】市民意見を募集しています。』

湘南海岸公園龍城ヶ丘ゾーン整備・管理運営事業』を検索ください。

問い合わせ先 都市整備部みどり公園・水辺課公園整備担当 TEL 0463-21-9852

平塚の新たな魅力づくりへのご意見をお寄せください！

魅力あるまちづくりに向けて 中学校完全給食準備事業

中学校給食準備事業については共同調理場方式を基本とし、小学校21校分を合わせた約16,000食を賄う計画になっている。単独校方式で実施している小学校7校も含めて、全体として提供食数の変動に対応していくことができる効率的な給食運営体制の構築を目指していくとこれまでに述べている。



問 昨年7月末に平塚市中学校完全給食推進体制を構築され、今年12月頃までに「(仮称)平塚市学校給食基本構想・基本計画」を策定する予定である。約16,000食を提供する共同調理場整備は全国的に見ても大きな規模である。どのように進めていくのか。

市長 令和2年度は、持続可能な給食運営及び新たな調理場整備・運営についての「学校給食の基本構想・基本計画の策定」と、中学校15校の施設整備及び効率的な配送を行うための「学校施設の調査」、そして、これらを踏まえた「※PFI導入可能性調査」を実施していく。これらの作業は、昨年に立ち上げた中学校完全給食推進本部を中心とした庁内での協議のみならず、学校現場や保護者からの意見聴取やパブリックコメントも実施していく。

その後は、PFI導入可能性調査の結果に基づき最終的に決定した事業手法により、令和3年度中には新しい共同調理場の整備事業者等の選定を行い、令和4年度中の整備工事の着手に向けて取り組んでいく。学校給食事業は子どもたちの健康や育ちにかかわる大切な事業であるとともに、多くの財源を必要とすることから、市民の理解を得ながら早期実現を目指して着実に事業を進めていく。

※PFI / Private Finance Initiative (プライベート・ファイナンス・イニシアチブ)とは、平成11年7月に制定された「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律・PFI法」に基づき実施するものです。公共施設等の社会資本の整備をする際に官民の適切な役割分担を行い、設計、建設、維持管理及び運営に民間の資金や経営能力、技術的能力を活用することで、良質で低廉な公共サービスの提供を実現する官民のパートナーシップの構築を前提とした事業手法です。(出典：平塚市HPより)

平塚市では見附台周辺地区整備事業、龍城ヶ丘ゾーン公園整備事業でこの手法を取り入れています。



最後に

新型コロナウイルス感染予防として流行当初から、「手洗い・うがい」が大切と云われています。幅広い年齢層の国民がこれを生活習慣としていたことは日本の誇りだと思います。

さらに、三つの密・「密閉」、「密集」、「密接」を避ける行動を私たちひとり一人が心掛け、感染予防の一翼を担いましょう。

新型コロナウイルスの感染拡大により公衆衛生の大切さ、医療のあり方、働き方改革、世界経済のバランスなどさまざま考えるきっかけになっています。誰もが経験したことのないこの事態、一日も早い収束を願って活動を続けてまいります。



とてもアナログな佐藤たかこが、ブログやホームページを展開しています。

「佐藤たかこ 平塚」で検索し、是非、ご覧ください！



ご意見・ご質問、応援メッセージは、E-mail : takatan.kike@md.scn-net.ne.jp

又は Fax : 0463-21-7600 にてお知らせください。